



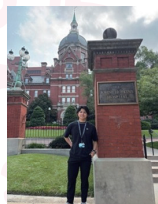
Title	出口の見えない国際社会。公衆衛生の「正解」を求めて、米国大学院での半年
Author(s)	神田, 正樹
Citation	目で見えるWHO. 2026, 96, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105790
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

出口の見えない国際社会。 公衆衛生の「正解」を求めて、米国大学院での半年



ジョンズホプキンス公衆衛生大学院 公衆衛生学修士課程、
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター救急科
神田 正樹 (かんだ なおき)

福島医大卒。国立国際医療研究センター病院（現国立健康
危機管理研究機構 国立国際医療センター）で初期研修修了。
後期研修を休止し、大学院留学中。

はじめに

みなさん、こんにちは。私は2025年6月から、アメリカ・メリーランド州ボルチモアにあるジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院（Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health）の修士課程（MPH）に留学しています。ジョンズホプキンス大学は、1994年以来「U.S. News & World Report」のランキングで1位を獲得し続けている公衆衛生分野のトップ校です。非常に優秀な教授陣や学生が集まり、学習環境も極めて充実していると感じています。執筆時点で留学から半年が経過しましたが、今回はこれまでの経験や学びについてお伝えできればと思います。

留学の動機

MPH留学を志したきっかけは、中学生から大学生にかけて抱いた公衆衛生分野への強い関心であり、一度この分野を包括的に学びたいと考えたことにあります。中学時代に東日本大震災を経験し、先進国である日本でもこれほどの甚大な被害が出ることに衝撃を受け、「災害大国である日本で、人の役に立てることを学びたい」と思うようになりました。高校時代には、シリア、イラク、アフガニスタンなどでの紛争が激化し、国境なき医師団（MSF）や国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）などの活動が報じられる中、同世代の若者が銃を手にした姿を見て深い衝撃を受けました。大

学時代には、健康増進を目的とした認定NPO法人「POMk Project」の設立に携わりました。低所得国での健康教育活動に関わった経験から、目の前の患者さんを救うだけでなく、より広い視野で多くの人々の健康を守る「公衆衛生学」の重要性を痛感したことが、現在の道に繋がっています。

現在の研究と学び

MPHでは、疫学、生物統計学、健康政策・管理学、社会行動科学、環境保健科学などを幅広く網羅的に学んでいます。研究面では、現在主に2つのプロジェクトに取り組んでいます。1つ目は、「May Measurement Month」に関連したネパールにおける血圧測定結果の横断



写真1 大学院エントランスの様子 出展：著者



写真2 学内自習室の様子 出展：著者



写真3 学内オリエンテーション写真 出展：著者



写真4 同期とスポーツ大会に参加した様子 出展：著者

研究です。ネパール全土で実施された高血圧スクリーニングの結果を解析し、依然として課題となっている高血圧の認知・治療・管理状況の改善を目指しています。2つ目は、ショートメッセージ(SMS)を用いた健康介入に関するスコーピングレビューです。高血圧、2型糖尿病、喫煙などの非感染性疾患(NCDs)を対象に、SMSを通じて複数の生活習慣病へ同時にアプローチする効果的な介入方法や、メッセージ内容の特徴を明らかにすることを目的としています。これらの授業や研究を通じ、医療格差の解消や政策の重要性、そして地域医療従事者による支援体制強化の必要性を強く実感しています。

学習環境

日本では公衆衛生を主に医学生や医師が学ぶことが多いですが、アメリカの大学院には、薬剤師や看護師といった医療職だけでなく、経済学や文学など多様なバックグラウンドを持つ学生や、世界中から多種多様な人種が集まり、日々切磋琢磨しています。学習環境も非常に優れています。学内には多くの自習室が完備され、電源やWi-Fiはもちろん、ビジネススクールやワシントンD.C. キャンパスの施設も利用可能です。図書館のオンラインシステムも充実しており、あらゆる文献やジャーナル、さらにはニューヨーク・タイムズなどの主要紙も無料で閲覧できます。また、福利厚生面では、大

学の保険を通じてインフルエンザやHPVなどの予防接種を無料で受けられるほか、24時間体制のメンタルサポートや無料のフィットネスジムなど、学生の心身を支える体制も万全で、アメリカらしい合理的な手厚さを感じます。

今後の展望

私は、MSFやNPO、その他国際機関など様々な進路を考えておりましたが、今のところ結論には至っておりません。現在は、歴史の転換点とも言える激動の時代に突入していると感じております。ウクライナ、そしてガザ・パレスチナでの出口の見えない紛争。アメリカによる国際連合(UN)や世界保健機関(WHO)からの脱退示唆といった国際秩序の揺らぎ。さらには、ベネズエラ情勢や、イランの混乱など、世界はあまりにも多くの、そして深刻な課題を抱えています。世界各国がどの方向に向かい、国際機関がどう振る舞うべきか。そして、その中で日本はどのような立場をとるべきなのか。多くの学生や教授教員らと議論しますが、誰にも明確な答えは出せません。

私自身、この半年間、公衆衛生の最高峰と言われるこの地で学びながら、今もなお拭えない葛藤の中にいます。果たして、UNや国際機関で働くことで、本当に悲惨な戦争を止めることができるのだろうか、という問いです。紛争が勃発し、多くの命が失われた後に、医療復興支援

として現地に入る。もちろんそれは尊い活動ですが、それだけでは「手遅れ」なのではないか、根本的な解決にはなっていないのではないか——。そんな無力感に近い感情を抱きます。病気を治すだけでなく、病気にならない仕組みを作るのが公衆衛生であるならば、戦争という最大の「人為的災害」が起きる前に、食い止める手立てはないのだろうか、日々考え議論しています。

最後に

今回、お話をいただいた佐伯壮一朗先生、留学することを了承してくださった職場の皆様、認定NPO法人POMk projectの皆様、また、目で見えるWHOの編集者の皆様、このような機会をいただきありがとうございます。引き続き精進して参ります。認定NPO法人POMk Projectでは、活動に賛同していただける方からのご寄付を随時募集しております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

参考文献

1. Home. Maymeasure.org. Published 2025. Accessed January 13, 2026. <https://www.maymeasure.org/>
2. POMk Project. Pomk.org. Published 2025. Accessed January 13, 2026. <https://www.pomk.org/donation>